

## 『英和俗語辞典』の補訂をめぐって

原口, 裕  
静岡女子大学文学部教授

<https://doi.org/10.15017/12041>

---

出版情報 : 語文研究. 52/53, pp.23-32, 1982-06-10. 九州大学国語国文学会  
バージョン :  
権利関係 :

# 『英和俗語辞典』の補訂をめぐる

原 口 裕

はらぐち

文久二年八一八六二、十九歳で来日したアーネスト・メーンソン・サトウ (Ernest Mason Satow) は早くから英和俗語辞書の出版を志していたようである。慶応二年八一八六六、十月二十日の横浜大火の中で私物の殆どを焼失したにもかかわらず、石橋政方の協力を得て編纂していた辞書の原稿を持ち出すことができ、二年間の労苦が無にならなかった喜びを日記にも回顧録にも記している。多忙をきわめた明治天皇江戸遷御の一八六八年十二月、英和会話辞書の編纂に専念している記事もある。この辞書は An English-Japanese Dictionary of the Spoken Language (以下、複製本の呼称に従い『英和俗語辞典』と記す) として明治九年八一八七六、ロンドンで出版された。やがて明治十二年八一八七九に再版される。再版本の序文には、初版本の多くが火災で焼失したため勿々のうちに補訂を余儀なくされたが、植物学、動物学、医学関係の用語をかなり増補し得たと記している。

明治九年から十二年といえは近代訳語の揺籃期であり、この辞典

の初版本にも Statistics, tōkei\*(c) ; table of—, tōkei-hō\*(c) とあって、早くも「統計」の語を登録していたりする。この稿では再版本における補訂の実態の調査から増補語彙の性格について述べることにする。

## 一 補訂の概略

『英和俗語辞典』の初版本と再版本の相違部分は約四千箇所に及ぶ。その概略を示すと次のごとくである。

- 1、再版に立項して補充した語、名詞五七六語、動詞一九語、形容詞二八語、副詞九五語、計七一八語
- 2、初版に立項したものの訳を欠く語に、付訳したもの、一五四語
- 3、初版に立項して訳を欠く語を、再版で削除したもの、七八語
- 4、初版に立項して付訳してある語を、再版で削除したもの、三六語
- 5、用例としてあげた語句で訳を欠くものに、付訳して空欄を補填したもの、三五例

- 6、用例・熟語を追加して、それに付記したもの、五六一例  
 7、用例・熟語を削除したもの、七例  
 8、訳語の相違

- a、訳語を増加した例、六二九例  
 b、訳語を改変した例、五六六例  
 c、訳語を一部削除した例、一九二例<sup>件</sup>  
 d、訳語中の助詞を添加・削除・訂正・変更したもの、二三六例

sugiru  
 ↓  
 wo sugiru  
 ↓  
 ato-modori wo suru  
 ↓  
 ato-modori suru  
 ↓  
 shītori-dachi na  
 ↓  
 shītori-dachi no  
 ↓  
 shaku (c) ni ikura  
 ↓  
 shaku (c) de ikura

- 9、英文による説明を添加・削除・訂正・変更したもの、九五例  
 10、日本語による説明を変更したもの、一例  
 11、品詞名の訂正・変更・補填、一三例  
 12、助数詞の添加、八四例

- 13、綴字の変更・訂正  
 fune  
 ↓  
 fune  
 [a. n. sô]

wo  
 八七例・wo ↓ o 二例・a ↓ wa 四例・ia ↓ ya 六例・  
 a、ローマ字綴り e ↓ ye 二〇七例・ye ↓ e 一六例・o ↓

- 14、大文字・小文字の相違、一一例  
 15、語分割表記の相違、二〇二例

16、記号の相違  
 BREADBASKET  
 ↓  
 BREAD-BASKET  
 ↓  
 SUB-CONTRACT  
 ↓  
 SUBCONTRACT  
 ↓  
 engawa  
 ↓  
 en-gawa  
 ↓  
 shinogi-yoi  
 ↓  
 shinogiyoi  
 ↓  
 kaakaa  
 ↓  
 kaa kaa

- a、〔 〕の脱落・補訂、一八例  
 b、\*印(雅言記号)の相違、一三例  
 c、(c)印(denotes that the word which precedes it is of Chinese origin)の相違、三五例  
 d、∧印(長音記号)の脱落・補訂、二五八例  
 e、√印(無声母音記号)の相違、二二例  
 f、；の脱落・補訂、三七例<sup>件</sup>  
 g、活用指示記号の補訂、三例  
 h、拍記号の有無、七八例  
 i、?!符号添加、三例  
 m'ma  
 (馬)  
 ↓  
 mma  
 ↓  
 dok'ka  
 ↓  
 dokka

右のそれぞれの項に見える異同は、語彙的にも語法的にも興味深い現象を多く含んでいるが、その詳細についての報告は割愛する。初版本で立項して付訳せず空欄のままにしておいた語で、再版本

でも訳を付せられず依然として空欄のまま残ったものが一七八語ある。初版本の序文に、同義の熟成した日本語が欠如していて空欄のまま立項する語のあることをわっているのであるが、

APOSTACY  
 CELERY  
 COCKCHAFER  
 DENOUNCE  
 EXECUTOR  
 EXONERATE  
 HOMOGENEOUS  
 INDICTMENT  
 PHENOMENON  
 SALVAGE  
 SEE-SAW  
 SERGE  
 SOFA  
 SPORTSMAN  
 TOPOGRAPHY  
 WINE-CELLAR  
 WORT

などの語はいかにも適訳を与えることの困難なことを思わせる。しかるに、別に立項付訳された語と品詞を異にするだけの同義語が一七語あり、付訳可能と思われるものがある。

FARM, n.  
 FARM, i. v. denji (c)  
 wo tsūkuru, 1;  
 nōsaku (c) suru.  
 FARM, t. v.  
 tsūkuru, 1.

初版本の右のごとき空欄が再版本にそのまま残されていたりするのである。これらの語のうちへボンの「和英語林集成」二版本の「英和の部」に立項して和訳されている語と共通の語が一三三語ある。

「英和俗語辞典」の初版本の序文には、日本語に関して「和英語林集成」を十分に (through-out) 参照した旨述べているのであるが、

(へボン訳)

ATTEND tsutomeru  
 tsuki-sou  
 BLUSH sekimen suru  
 BOOKMAKER chojutsu sha  
 BRAGGART hara-fuki  
 ELEMENTARY moto no  
 ESSENCE genso  
 moto  
 gokui  
 denji  
 jimen  
 dembata  
 FARM mono-gurui  
 kichigai  
 FRENZY tattoki  
 takai  
 HONOURABLE kōmei naru  
 nadakai  
 meijo naru

(へボン訳)

LINIMENT kōyaku  
 MANUAL techō  
 tebiki  
 MUTINY sōdō  
 muhon  
 ikki  
 OUTLAST nagaku motsu  
 nagaku tamotsu  
 mochi ga yoi  
 PENETRABLE tsuki-komareru  
 PUZZLE mayowasu  
 komaraseru  
 SECURE ukeau  
 mamoru  
 katamaru  
 SHAPE katadoru  
 tsukuru

などの語も再版本でも付訳されず、その作業が必ずしも十分でなかったことをうかがわせる。また付訳できなかった CLEFT CHORDER, SODOMITE などの語はむしろ削除して然るべき語とも言えよう。

「英和俗語辞典」初版本の見出し語数は、一四、一〇三語である。四千箇所におよぶ補訂は如上に示したように細部にわたるもの

であったものの、不十分な点も残ったようである。再版本の序文に、内容改善に専心する時間が持てなかったことを述べているが、著者にとって不本意な補訂であったのかも知れない。

## 二 増補語彙の傾向

再版本に立項して補充した七一八語中、名詞が五七六語で80%を占めている。動詞は一九語で、自他いづれかの形を初版本にあげるもの八語、自他を問わねば、ヘボンの『和英語林集成』二版本の「英和の部」にあげる語と共通するものが一二語あり、とりあげるほどの特徴はない。

形容詞は、『和英語林集成』二、三版「英和の部」と共通するものは九語であるが、柴田昌吉・子安峻編の『附音英和字彙」(明治六年)とでは一八語が共通している。その他の語も、

CONFUSE  
|  
CONFUSING  
ENJOY  
|  
ENJOYABLE  
ENTHUSIASM  
|  
ENTHUSIASTIC  
SUAVITY  
|  
SUAVE

のように同義語を初版本に登録していて、残るのは LISSOM, NONCHALANT の二語しかない (DAPLED も他に見えぬが、gray horse, renzen-ashige をあげるための立項である)。

副詞は、初版本に形容詞をあげて、同義副詞形を欠く場合、再版本で、

ADEQUATE  
↓  
ADEQUATELY  
ANALOGOUS  
↓  
ANALOGOUSLY  
GOOD-TEMPERED  
↓  
GOOD-TEMPEREDLY

右のように丹念に -ly 型の副詞を立項添加したもので、増補された九五語中、形容詞の対応例を欠くものは、DEFINITELY, HURRI-EDLY の二語(動詞に対応する PRICKLY が他にある)しかない。副詞形を一々あげない『和英語林集成』とは傾向を異にしているが、新增補語ではない。かくて、増補の力点が名詞に置かれていたことがわかるのである。

## 三 増補名詞語彙の性格

増補された名詞群は、(1)植物名、(2)医学用語、(3)動物名、(4)物理・化学・工業関係用語、(5)その他、に分類することができる。

### 1. 植物名

『和英語林集成』二版本「英和の部」の見出し語数は、松村明氏によると一四、二六六語<sup>注</sup>で、『英和俗語辞典』とはほぼ等しいが、両者を比較して気づく相違の一つに植物名がある。初版本の最初の部分をあげれば、『和英語林集成』「英和の部」で立項しない語は、

追  
加  
さ  
れ  
た。  
英  
和  
辞  
書  
に  
な  
い  
特  
徴  
で  
あ  
る。  
増  
補  
に  
あ  
た  
っ  
て  
も、  
植  
物  
名  
が  
最  
も  
多  
く  
の  
ご  
と  
く  
で、  
植  
物  
の  
英  
名  
・  
学  
名  
を  
多  
く  
あ  
げ  
て  
い  
る  
点  
は、  
当  
時  
の  
他  
の

(初版本)

CHERRY-TREE, n. sakura

(再版本)

CHERRY-TREE, n. sakura  
wild—, yama-zakura  
double—, yae-zakura  
drooping—, shidare-zakura  
early—, higan-zakura

ABIES FIRMA (momi)  
ARALIA EDULIS (udo)  
ASAFOETIDA (agi)  
AWN (noge)  
BIGNONIA GRANDIFLORA  
(nôzen-kadzura)  
CASSIA-BUDS (keishi)  
CAULIFLOWER (hana-na)  
CEDAR OF JAPAN (sugi no ki)  
CELTIS WILDENAWIANA  
(e no ki)  
CHAMAEROPS EXCELSA  
(shiro or shiuro)  
CHINA-ASTER (ezo-giku)  
CHRYSANTHEMUM (kiku)  
CITRUS JAPONICA (kinkan)

(和英語林集成・二版本)

ORCHID, n. Mojdzuri.

(英和俗語辞典・初版本)

ORCHID, n. moji-dzuri; (dendrobium  
japonicum) sekkoku (c)

(再版本)

ORCHID, n. chidori-sô ;  
sp. Liparis nervosa, ginran (c)  
phajus maculatus, kinkei ran (c)  
platanthus japonica, tsuru-zakisô  
cephalanthera falcata, ki-sanran  
Epipactis Thunbergii, suzuran  
spiranthes australis, neji-bana,  
moji-zuri  
cypripedium japonicum,  
kumagai-sô

(和英語林集成・二版本)

LILY, n. Yuri.

(英和俗語辞典・初版本)

LILY, n. yuri; lilium callosum; hime-yuri  
(再版本)

LILY, n. yuri; lilium callosum; hime-yuri;  
l. speciosum, kanoko yuri  
l. auratum, hôrai-ji yuri  
l. longiflorum, Tametomo yuri  
l. tigrinum, oni-yuri  
lily of the valley, kimi-kake-sô  
blackberry—, hiôgi

右のように、既存の見出し語に多くの同類語を追加して植物名を網羅するとともに、新たに立項して和名をあてている。いまAの部に  
見える増補例をあげて他の英和辞書と比較してみよう。

柴田「英和字彙」……1、「和英語林集成」二版「英和」……  
2、「和英」……3、「和英語林集成」三版「英和」……4、  
「和英」……5。用語の有無を＋で示す。

ALMOND (amendô)	1	+	+	+	+	+
ACANTHOPANAX spinosum (ukogi)	2	+	+	+	+	+
ricinifolia (harigiri)	3	-	-	-	-	-
(hôdara)	4	-	-	-	-	-
ACER, Buergeriaunum	5	-	-	-	-	-
(mitsude momiji)		-	-	-	+	+
ACTINIPIA POLYGAMA (matatabi)		-	-	+	-	+
AEGINETA INDICA (namban-kiseru)		-	-	-	-	-
ANDROMEDA JAPONICA (asebi)		-	-	-	-	+
ANGELICA JAPONICA (shishiudo)		-	-	-	-	-
(kiusiana)		-	-	-	-	-
(ashita-na)		-	-	-	-	-
ASPARAGUS officinalis (temmendô)		-	-	-	+	+
wild var (kijikakushi)		+	-	-	+	+
(sôjiku)		-	-	-	-	-
ATRACTYLIS lancea (sôjutsu)		-	-	-	-	-
ovata (okera)		-	-	-	-	+

英名はもとより和名も登録していない場合が多い。「英和俗語辞典」再版本の増補植物英名は三一七語にのぼり、増補名詞の55%を占めているのである。

リンドレー著「<sup>スクールボタニ</sup>学校本草」を訳して、明治七年五月出版された小野職愨訳久保弘道校「植学訳筈」(文部省)は「改名ノ不詳モノハ已ムヲ得ス俗語ニテ訳シ△ノ符号ヲ記シテ之ヲ分ツト雖モ願フニ其訳妥当ナラサルモノ多カルヘシ識者請フ之ヲ訂正セヨ」と序に記して、植物学用語の訳出の困難なことを訴えているが、「英和俗語辞典」は、当時としては、英名・学名に通俗の語をあて、ユニークで最も内容の豊富な植物字彙となっているのである。やがて時代の要請は、この辞典と同じ用語を「和英語林集成」三版本「和英の部」に、

シウカイドウ Begonia evansiana  
ラウバイ Chimnanthus fragrans  
オホサンザシ Crataegus sanguinea  
サンシユ Cornus officinalis  
などとのせることになった。

## 2、医学用語

植物名について増補名詞の大部分を占めるのは医学用語である。Aの部の増補例をあげれば、次頁の通りで、●印は「和英語林集成」二版本「英和の部」にあげる語、○印は同じ三版本「英和の部」に増補された語と共通するもので若干訳語の異なるものもある (chintsuzai → shitsuzai, saim-yaku → biyaku, me no jiken-hô → shitaikaibô)。二版本と三版本とを比較して知られるように、明治も十年代の後半になると英和辞書にこの種の用語

を掲載する必要が生じてきた。もちろん、『英和俗語辞典』には、

- ABSORBENT (kiushiukan)
- ACHILLIS TENDO (akirishi ken)
- ACNE (nikibi, jakuhan)
- ALBUMEN (danhakushitsu)
- ALBUMENURIA (danhakuniô)
- AMENORRHOEA (gekkei-heishi)
- AMENTIA (guchi)
- ANAEMIA (hinketsu)
- ANAESTHESIA (masui)
- ANEURISH (dômiaku-riu)
- ANGINA PECTORIS (kiôtsû)
- ANKYLOSIS (kansetsu-yugô)
- ANODYNE (chintsûzai)
- AORTA (dai-dômiaku)
- APHRODISIAC (sai-in-yaku)
- ASTRINGENT (shiurenzai)
- AUSCULTATION (teishinhô)
- AUTOPSY (me no jiken-hô)

のような「和英語林集成」三版本にのせない特殊な語も多い。ここ

- COLLAPSE (seirioku-chiusui)
- DYSMENORRHOEA (keihei)
- HERPES (saihô-sokushin)
- HUMERUS (jôhakkotsu)
- HYDROCELE (inno-suishiu)
- MANURING (baiyo)
- MITRAL VALVES (sôbôben)
- SUPPURATION (kanô)
- VARICOCELE (kogan-miakushiû)

で奥山虎章「医語類聚」(明治六年、名山園)、同「増訂医語類聚」(明治十一年、名山園)における医学用語との共通語を調査すると、

a、【医語類聚】

蛋白 ALBUMEN、動脈瘤 ANEURISM、大動脈幹 AORTA、眼  
 自療法 AUTOPSY、脚氣 BERBERI、気管炎 BRONCHITIS  
 (kikan-shiyen)、毛細管 CAPILLARY VESSL、結腸 COLON  
 ……等、八九語

b、【増訂医語類聚】

面皰 ACNE、蛋白尿 ALBUMENURIA、貧血病 ANAEMIA、  
 衰弱 DEBILITY、食道 OESOPHAGUS、弛張 PROLAPSE、  
 佝僂病 RICKETS、顔面神経痛 TIC-DOLLOLREUX……等、  
 一一語

c、右の両書と訳語を異にするもの

ANKYLOSIS (kansetsu-yugô)、AMENORRHOEA (gekkei-  
 hei-shi)、HERNIA (datchô)、HYPOCHONDRIASIS (uisuyû-  
 biô)、LABORATORY (seiyakujo)、LACERATION (resshô)、  
 LETHARGIC PERSON (yûcho-jin)……等、一七語

d、右の両書にみよならぬもの

ABSORBENT (kiushukan)、ACHILLIS TENDO (akiri-  
 shiken)、AMENTIA (guchi)、ENDEMIC (fûdobô)、  
 GAMBIER (binrôkô)、INSANITY (kiôki)……等、二八語  
 計一四五語

右のごとくで、明治十年代当初の医学用語の実態を垣間見ることが  
 できるのである。



医学用語の増補は、その用語の特殊性から、難解な漢語をこの辞典に散見させることになった。俗語辞書としての基本的な性格が再版本ではより失われる傾向にあることを物語っている。

### 3、動物(鳥、魚をも含む)名

再版本の序文では動物学の用語をかなり増補し得たと記しているが、実例は多くない。

ANTELOPE (kamo-shika)  
BITTERN (sankano-goi)  
BOMBAY-DUCK (sayori)  
BULLFINCH (teri-uso)  
CRAYFISH (ise-ebi)  
GECKO (yamori)  
GLOBE-FISH (fugu)  
GREBE (moguri, kaitsumuri)  
GURNARD (hōbō)  
HOOPOE (yatsu-gashira)  
KESTREL (maguso-daka)  
LOBWORM (gokai)

など四二語である。ただし、これらのうち『和英語林集成』二版本「英和の部」にあげるものは、ANTELOPE (shika no ru) 一語しかなく、三版本「英和の部」でも、ANTELOPE、BULLFINCH、CRAYFISH など一四語をあげるにすぎない。柴田『英和字彙』にも見えない語が多く、序文に揚言する増補は行えているわけである。

### 4、物理・化学・工業関係用語

物理・化学・工業関係の用語は、BEVEL (waikaku) / BLACK-LEAD (koku-yen) / BLISTER-STEEL (awa-hagane) など一六

語をあげることができる。すでに開拓使版『英和对訳辞書』(明治五年)には元素表、化学・鉱山関係用語集を付録としてあげており、NITROGEN 窒素、OXALIC ACID 尿酸、REALGAR 鷄冠石など共通する語があつて特にとりあげるほどの用語はない。当時の辞書にあまり見えないのは、BLAST-FURNACE (shōfūto) / BOILER-PLATE (kanyō-teppan) くらいか。

### 5、その他の訳語

キリスト教用語の実態調査は、当代の英和辞書において興味あるテーマである。この辞典では、

○ CATECHIST (dendōsha)  
○ CATECHUMEN (seigonsha)  
CATHOLIC (kōkaijin)  
CONFIRMATION (kenshinrei)  
○ DEACON (kairi)  
DEITY (kami)  
○ EASTERDAY (soseibi)  
○ EVANGELIST (sekkiōsha)  
○ FONT (seisen no idzumi)  
GOSPEL (fuku-in)  
○ PRESBYTER (chōrō)  
○ PRESBYTERIAN (chōrōkuwaijin)  
SAVIOUR (sukui-nushi, kijushu)  
SINNER (tsumi-bito)

右の語が増補された。○印は『和英語林集成』二版本「英和の部」に見えないものである。共通する語も訳語がちがっていたりしてむしろい。

学術用語は、他に見るべきものがなう。METEOROLOGY (kishōgaku) / METEOROLOGICAL TABLES (kishōhiō) が追加され

ているが、すでに柴田『英和字彙』にあげるところである。

外交官としてのサトウに関連して、当代の他の辞書に見えない語  
びに CONSULAR AGENT (daiben-rōji)「EXTRATERRITORIALITY  
(jigai-hōken)」がある。岸田吟香『和訳英語連珠』(明治六年)  
は後者を Extraterritorial「同支配所外」と訳していて、サト  
ウの訳語の的確なことが知られる。

明治の新文物に関しては、明治十年頃までの英和辞書にあまり見  
えない語に、

ANNUAL, —expenditure (saishutsu)  
—revenue (sainiu)  
BANK-MANAGER  
(ginkō no shihainin)  
CALCULATION, rough—(gaisan)  
exact—(seisan)  
CLAMPING SCREW (tome-neji)  
DISTRIBUTOR (of newspapers)  
(haitatsunin)  
HYDROGRAPHICAL DEPARTMENT  
(suiro-kioku)  
SUBDEPARTMENT (bunkioku)

などがあって、当時の言語生活におけるその使用実態の調査をうな  
がされる。

他の一般の日常用語に関しては、生活語としての検討を必要とす  
るものもあり、ここでは省略に従うことにしたい。

## むすび

すでに指摘してきたように、『英和俗語辞典』の補訂は、その序  
文に述べる通りに必ずしも十分なものではなかったようである。ま  
た、その増補語彙は動植物名・医学用語に偏ったものとなった。そ  
のために、再版本は、いわば、当時としては他に例がない、動植物  
字彙・医学用語集を内蔵する俗語辞典となっている。湯浅茂雄氏に  
よれば、柴田昌吉・子安峻編『<sup>附音</sup>補訂英和字彙』は、その二版本『<sup>増補</sup>  
英和字彙』(明治十五年)の補訂にあたって、奥山虎章『<sup>増補</sup>医語類聚』  
『<sup>増補</sup>訂訂医語類聚』などの術語辞典から専門用語を多く採用して新見  
出し語としているという。『英和俗語辞典』再版本は、或る意味で  
は、『<sup>増補</sup>訂訂英和字彙』など近代辞書の先蹤をなすものと言えるかも  
しれない。

この辞典を先行する前田正毅・高橋良昭編『<sup>増補</sup>大正和訳英辞林』(明  
治四年)、ヘボン編訳『和英語林集成』二版本「英和の部」(明治  
五年)、知新館社友同訳(吉田賢輔等)『英和字典』(明治五年)  
柴田『英和字彙』(明治六年)、岸田吟香編『和訳英語連珠』(明  
治六年)と比較すると、語の運用を説き、実用例を豊富にあげて説  
明を加える点において、これら諸辞書の追隨を許さないものがある。  
付訳は江戸末期から明治にかけての生きた口語でなされている  
ことは周知の通りである。しかるに、その補訂は、

APPRAISER (me-kiki)  
 GOBANG (gomoku narabe)  
 LULLABY (ko-mori uta)  
 NEEDLEWOMAN (o-hari)  
 Pack-HORSE-MAN (mago, mmakata)  
 SWADDLING-CLOTHES (mutsuki)  
 SWORD-KNOT (sage-wo)

などの語が追加される一方に、多量の学術用語、難解な漢語を持ちこむことになった。俗語辞書として出発したこの辞典の基本的な性格に背反する訳語の混入であった。漢語による近代訳語の定着を必須とした明治という時代の趨勢を、小さな辞典の補訂作業の背後にも見るのである。

注

- 1 萩原延寿「遠い崖」△四〇九・四一〇▽、朝日新聞(夕刊)昭和五十二年九月十三日・十四日
- 2 坂田精一訳「外交官の見た明治維新」(上)、岩波文庫二〇一・二〇三頁
- 2 注1 坂田精一訳本(下)、岩波文庫二三八頁
- 3 「和英語林集成」第三版復刻版解説(松村明氏)九七九頁、同注④に森脇外の「統計」に関する論文をあげる。
- 4 IMIRATE(counterfeit)niseru, 2 (初版本) → IMIRATE (counterfeit) 2 (再版本) 木)のような誤解と思われるものもあつてゐる。

5 テキストに勉強社の複製本を用いたため、この種の調査は正確を期しがたい点がある。

6 「和英語林集成」第三版復刻版解説(松村明氏)九七六頁

7 「英和俗語辞典」初版本の「雅言」の中に、すでに約一三〇語の医学用語の訳出がある。

8 湯浅茂雄「訂正英和字彙の訳語」特に増補された訳語の典拠を中心に、「国文学論集」(上智大学国文学会)十四、昭和五十六年一月

一九八一・一一・一五